

IPv6化の課題と関係者への期待

2006 / 11 / 21

KDDI株式会社

阿部 健二

ke - abe@kddi.com

当社におけるIPv6化の課題

IPv6化の現状

- 法人向けネイティブ、トンネリングサービスを提供中。
- IPv4設備については新規設備手配および設備更改に合わせて、順次IPv6デュアルスタック対応機器を導入中。

コストの発生

- ルータ、スイッチ、監視・運用システム、サーバ、OS、アプリケーション等への設備投資
- IX接続、トランジット契約、人材育成等の経費

運用経験の蓄積

- IPv4と比べ、ネットワーク規模が小さく、運用実績が少ない。

その他、全般的な事項

- 大規模ネットワークに適応する仕様の標準化遅れ(SNMP、マルチキャスト、マルチホームなど)
- 各種開発コストを誰が負担？

関係者への期待

v4 / v6トランスレータ機能の開発

- 集中管理により効率的な運用を可能とするための処理能力の高い機器の提供

IPv6に特化したアプリやサービスの開発

- ユーザが積極的に利用を望むようなIPv6のみの付加価値提供。

行政による対応指針の提示

- 総務省やIPv6普及・高度化推進協議会等からの、ある程度強制力のある機器導入、サービス提供・利用開始期限の設定

行政による各種支援策の拡充

- 既存支援策(税制優遇措置、低利融資、利子助成)の更なる拡充
- 上記開発やユーザ宅内装置、サービス利用料等への助成拡大

Designing The Future

KDDI